

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503700		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム 北海ハウス二番館		
所在地	札幌市白石区北郷8条3丁目6-30		
自己評価作成日	令和8年1月23日	評価結果市町村受理日	令和8年2月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyouvoCd=0170503700-00&ServiceCd=320&Tyne=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和 8年 2月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

札幌新道に面している、和風の門構えが特徴の建物です。木造の為木のぬくもりが感じられ、暖かく落ち着いた雰囲気になっています。食事等が皆が集まるフロアには、ちぎり絵で手作りしたカレンダーや、職員が手作りしたぬいぐるみを飾り、生活感や季節感を感じてもらえる様に工夫しています。利用者は、それぞれ居室で好きな事をして過ごしたり、皆がフロアに集まる時には体操をしたり、脳トレやゲーム、カラオケ等をして過ごす時間もあります。他者がお昼寝している時間に、あえてフロアで静かに新聞を読む方もいます。それぞれが思い思いに時間を過ごしています。事業所が力を入れている1つは食事で、人員不足ではあるのですが、調理は専門の職員を配置して、買い物も自分達で近所のスーパーに出掛ける為、旬の食材を使って、全てホーム内で調理をしています。カレーや煮魚の時等はいいい香りが漂う為、入居者からも「今日はカレーだね。楽しみだね」と声が聞こえてきます。行事食も恵方巻だったり、ちらし寿司だったり、季節に合わせて手作りし、食べやすい形状で提供しています。家庭的な雰囲気と食生活を大事にしながら、認知症になっても安心して暮らせるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム北海ハウス二番館」は、開設から21年目を迎える事業所です。最寄りのバス停から徒歩約10分、幹線道路に面した住宅街に位置しています。2階建て2ユニットの建物は和風の造りで、門構えと外観からは風格が感じられ、内装も和を基調とした生活空間となっています。ケアマネージメントの面では、ケアプランに沿った支援が提供できているか、利用者の状態に変化がないかを毎日モニタリングし職員間で共有しています。さらに2か月ごとに評価を行い、職員の気づきによる提案も速やかに支援へ反映しています。食事の面では、職員が交代で献立を作成し、平日は調理専門員が調理を担当しています。旬の食材を用いた品数豊富な食事が提供され、職員も同席して食事をする事で家庭的な雰囲気が生まれています。利用者の「食べたい」という希望にも柔軟に応えています。また、運営推進会議の後には、会議出席者と一揃に夏季はテラスでバーベキュー、冬季は「北海居酒屋」と称した懇親会を実施し、食堂が居酒屋風の空間となり、地域の方との交流の場となっています。管理者は働きやすい環境づくりにも配慮し、育児中の職員が子供を伴って勤務できる体制があります。「食」を大切にし、家庭的で安心して過ごせる事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらい
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある			○	3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を全職員が理解して、実践する様に努めている	運営理念は玄関およびスタッフルームに掲示し、職員は日常的に確認できる環境です。勤務年数の長い職員が多く、理念は日々の支援の中で実践されています。今後は会議等で理念について取り上げさらなる共有の機会を設ける意向です。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのスーパーには週3回買い物に出掛け、大型の商業施設やホームセンターやコンビニも利用させてもらっている。理美容に出掛ける方もいて、地域の一員として日常的に交流している。町内会行事にも出来る形で参加させてもらっている	地域の情報は町内会関係者から得ています。散歩時には近隣住民と挨拶を交すなどの交流をしています。地域の子ども神輿が系列事業所に巡行する際には、利用者も一緒に見学し、地域行事を楽しむ機会となっています。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通勤の途中等で、ご近所の方と認知症の方の様子や支援についての会話をしたり、相談を受ける事もある。推進会議ではホーム内での実態を伝えている		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日々の様子や活動内容、事故報告、行事の様子や入居者・職員の移動状況等を報告し、話し合いや意見を頂いて、サービスの向上に活かしている	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、町内会関係者複数名の参加を得て2か月ごとに定期的に開催されており、報告内容について意見交換が行われています。議事録は全家族に送付し、事業所の運営状況を共有しています。利用者が参加する場面もあります。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な事は連絡を取って確認する様にしている。生活保護の方が多く、特に保護課との連絡は多いと思う。実情を伝えながら、相談したり助言を頂いたりしている	各種報告等は、管理者が電子申請やメールで行っています。札幌市のおむつサービス申請は直接窓口に出向き手続きを行っています。各課担当者とは、いつでも連絡が取り合える関係となっています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在やむ負えない理由で拘束対応の方がいるが、委員会を設置し、会議の開催時に毎回検討をしながら対応している。禁止事項の確認、研修を行いながら、理解を深めている。玄関の施錠に関しては、立地条件上安全面を優先して施錠をしている事をご家族に説明し、了承を得ている	指針を整備し、虐待防止・身体拘束適正化委員会を定期的に開催しています。委員会で話し合われた内容は職員へ周知しています。研修では「対象となる具体的な行為11項目」についても確認しています。対象となる利用者については、改善に向けて定期的に話し合いを重ねています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修の他、外部研修にも参加して、学ぶ機会を持つ様に努めている。日常的に利用者の全身に目を配り、虐待が見逃ごされる事が無い様に注意を払い、防止に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度が必要であれば、都度関係者と相談しながら活用できる様に支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約や改定の際は、不安や疑問点を確認しながら十分な説明を行い、理解と納得を得て行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は直接職員に、家族は要望や意見を、訪問した時や電話・メール等で職員や管理者に伝えてくれている。その際は全体で共有して、どのように反映させるかを話し合いながら運営している	家族には毎月「ききょう便り」と、2か月ごとに運営推進会議議事録を送付し、利用者の暮らしぶりを伝えています。面会時や電話連絡時、メールでも情報を共有し、要望や意見の汲み取りに努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は出来る限り職員の意見や提案を受け入れる努力をし、事業所だけでは判断しにくい事は本部の意見を伺い、働きやすい環境を整える様に努めている。	管理者は職員の意見や提案を随時聞き取り、可能なものから速やかに実践し、連絡ノートで共有しています。また、子供連れの職員には負担の少ない仕事を依頼するなど配慮しています。職員は事業所内の役割を分担し、運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は個々の職員の努力や実績、勤務状況等を把握して本部に伝えている。本部と相談しながら、向上心を持って働ける様整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員のケアの実際と力量を把握し、社内研修を実施し、希望する外部の研修にも参加できる様に調整して、働きながらトレーニングしていく事を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者は法人内で定期的に会議で集まるが、職員はなかなか他同業者との交流を持つ機会がない		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の困りごとや不安、要望を確認し、出来る事・出来ない事、違う方法等を説明し、納得して安心できる状態で入居を決めて頂く様に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と同じで、入居前の段階でご家族から心配事や不安、要望等をきちんと聞き取りをして、納得したうえで入居を決めて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の情報を収集し、現状を把握したうえで、先ず必要な支援を見極めて、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に介護をするのではなく、毎日と一緒に過ごす家族の様な関係を築いていける様努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、お手紙、広報誌等で本人の様子を伝えて、色々と相談しながら、共に本人を支えていく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ADLの低下やトイレ等の事情で、段々と家族との外出の機会が減少してしまっている。最近では電話の取次ぎ程度の支援になっている	入居前からのデイケアを継続している方や、趣味の編み物の継続を家族と共に支援しています。また、手紙の返事の投函支援や葬儀参列の際の支度も支援しています。訪問理美容師とも馴染みの関係となっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、トラブルを避け、仲の良い方はいつでもおしゃべりができる様に配慮している。一人ひとりが孤立する事がない様、利用者同士が関わり合い、支え合える様な支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて相談や支援に努めている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの思いや暮らし方の希望、意向は日常の関りの中や、アセスメントを通して把握し、全体で共有して、意に添える様に努めている。困難な場合でも、本人本位に検討して、代替や近づける案を考えながら支援している	日常の支援の中で思いや意向を把握し、表出が難しい方も表情や仕草から思いを汲み取っています。フェイスシートに生活歴を記載し、趣味や嗜好をセンター方式のシートに記して共有しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、担当のケアマネ等、なるべく多くの情報を集め、生活歴や馴染みの暮らし方、今まで利用していたサービス等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方や心身の状態、有する力等の現状の把握に努め、共有している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	困り事や問題点は、日々職員間で共有して話し合いながら試行錯誤している。毎月モニタリング表で評価し、フロア会議で検討して、必要な関係者とも相談して、意見やアイデアを反映しながら、現状に即した介護計画を作成する様に努めている	居室担当職員が毎日モニタリングを行っています。2か月ごとに評価を行い、ケアプランは本人本位となるよう話し合い、6か月ごとに更新しています。日々の記録はケアプラン早見表を用い、タブレット端末へ入力しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や情報はタブレットを利用して入力し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに応じて、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組む様努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それぞれの暮らしを支えている地域資源を把握し、心身の力に応じた安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様に支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人と家族の希望に添いながら対応している。現在内科医は2か所の病院が往診の対応をしている。往診のない他科の受診に関しては、家族が対応できない場合は、通院の支援を行って、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による月2回の往診があります。歯科医師の往診もあり、歯科衛生士による口腔ケア指導も受けています。専門科の受診は家族または職員が同行支援を行い、受診記録内容は家族とも共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日に医療連携で看護師の訪問がある。その他体調に変化があれば、協力医療機関の看護師にも相談して、状態に応じて適切な受診や看護を受けられるように支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療には常に入居者の情報を伝えている為、入退院もスムーズに行える関係作りをしている。救急搬送等で他の医療機関に入院になる時も、病院関係者と情報交換や相談を行い、安心して治療できる様に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	事業所では看取りを行っていないので、契約の時点で重篤化した時の説明を行って、納得を頂いている。常に病院関係者と相談をしながら、本人にとって一番良い方法を選択する様に努めている	利用開始時に「重度化した場合の対応指針」を説明し、同意を得ています。終末期と診断された場合は、医療機関への移行となりますが、本人や家族に寄り添い事業所でできる支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、急変や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応を行える様に実践力を身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や地震、水害の避難訓練を行い、昼夜を問わず利用者が安全に避難できる様に努めている。非常時の備蓄品も確認しながら、緊急時にも対応できる様にしている。地域との協力体制も築いている	地震に伴う火災避難訓練を夜間想定で7月に実施しています。12月には水害を想定した垂直避難訓練を行っています。今後、3月には2回目の地震火災訓練を実施する予定です。備蓄品も確保しています。	避難訓練において、防災設備会社など非常時対応に詳しい立場の方からの助言を受ける機会や、地域住民の協力を得た訓練の実施が期待されます。また、ケア別、個別対応について話し合いが行われることも期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない様に言葉かけや対応に気を付けている。気になる時はお互いに声を掛け合いながら対応している	身体拘束防止・虐待防止の研修を通して、人格の尊重やプライバシーの配慮について学んでいます。申し送り時はリスト順に氏名を伏せて行い、利用者への呼びかけは苗字に「さん」を付けて対応しています。個人情報に関する書類は適切に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から本人の思いや希望を会話の中で引き出す工夫をしている。好きなお菓子を選んだり、対象物を絞り込んで、どちらかを選んでもらったりして、自己決定ができるように働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	夜の入浴等、職員の配置で添えない事もあるが、なるべくそれぞれのペースに合わせて希望に沿ってその日を過ごせる様に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を選んだり、髪の毛を結んだり、本人の希望する身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになる様に、買い物から調理まで全て事業所で行っている為、旬の素材を取り入れて、見た目にも食欲がわく様に、彩りよく盛り付けて提供している。なるべく自分で食べれる様に食器や切り方等も個々に対応している	家庭的で品数豊富な献立は職員が考え、調理専門職員が手作りで提供しています。季節の行事食や誕生会、BBQ、「北海居酒屋」なども職員のアイデアや利用者の「食べたい」の希望に応じて実施しています。菜園やプランターで育てた野菜も食卓に上っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は個々に対応し、少なければおやつで工夫をしたり、往診医に相談して補助食品も使いながら対応している。水分も摂取量の少ない方はチェックを行い、好きなもので提供したり、小刻みに提供する等の工夫をしながら支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・寝る前、毎食後に口腔ケアを行い、清潔の保持に努めている。歯科医や衛生士共連携して、それぞれの口腔内の状態を把握し、いつまでも美味しく食事が摂れる様に支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくトイレで排泄できる様に、時間や本人の様子で声掛けや誘導を行っている。トイレの回数が非常に多く、疲れてしまう方等は、ポータブルトイレの設置を行い、排泄の負担の軽減を図る等して自立に向けた支援を行っている	水分摂取量を含め、排泄のパターンを把握し、事前誘導を行っています。日中は座位が保てる方は、トイレでの排泄を支援しています。適切な支援により、入居後におむつからパッドに変更となるなど本人のQOLが向上した例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食は雑穀米にして、繊維質の食材を取り入れたり、水分量を確保する等して、なるべく便秘をしない様な取り組みをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	一人ひとりの好みの温度や入浴剤の色や香りに配慮して、入浴を楽しめる様に支援している。夜の時間帯の対応は難しいが、希望や気分にも合わせて対応している。面倒がっても、お湯に入ると「ありがたいねえ…天国だね」との声が聞かれている	ひとり週2回、午後の時間帯に入浴支援を行っています。湯温の調整や入浴剤を使用し、湯船に浸かることが難しい方にはシャワー浴で対応しています。同性介助の希望にも配慮し、職員との会話や歌を楽しむ時間となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や、体調、状況に応じて休息したり、安心して気持ちよく眠れる様に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人一人の病気や服用している薬を理解して、複数の職員で確認し合って、誤薬や飲み忘れを予防しながら服薬の支援をしている。医師・薬局とも連携して、飲みやすい形状を工夫したり、症状の変化の確認も報告しながら支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かして、家事も分担してそれぞれが役割を担って過ごしている。コーヒーの好きな方、カラオケを楽しみにしている方等、それぞれの楽しみ事や気分転換等の支援を行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はADLの低下等で、デイケアへの通所者は1名になってしまったが、楽しみに通われている。地域の理髪店を利用している方もいるので、その際は同行している。また、家族の思いや希望にも添える様に配慮し、協力しながら外出できるよう支援している。	季節の良い時期には事業所周辺を散歩しています。テラスで育てている野菜の水やりを一緒に行うなど、外気浴で気分転換を図っています。行事として、車でライラックの花を鑑賞に出かけたり、外食の機会を設けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事の大切さは理解しているが、認知症の進行の為、何度も位置を変えて隠して、結局は何処に隠したか分からなくなってしまう事が多く、お金の所持はお断りしている。希望の品の購入等は支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人等への電話の取次ぎや、手紙のやり取りができる様に支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、温度や明るさ、清潔感を保つ様に配慮して、食卓の配置なども考えて、皆が集まりやすい様にしている。手作りのポスターやカレンダー、ぬいぐるみ、季節の飾りつけ等で生活感や季節感を取り入れて、心地よく過ごせる様に工夫をしている	居間・食堂は、対面キッチンやスタッフルームから見守りがしやすい造りです。台所からの調理音や香りが食欲を促し、食事前には口腔体操を行っています。壁には季節の飾りや行事の写真が飾られ、ゆったりとくつろぐ姿が見られます。ユニットによっては熱帯魚を飼育しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であっても、1人で新聞を読んだり、熱帯魚を眺めたり、仲の良い利用者同士でお話したり、一人一人が好きな様に過ごせる空間になる様に工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は基本的に、今までの生活の延長になる様に好きな物や大切な物を持ち込んで、本人が安心して過ごせる空間になる様に配慮している。ただ、認知症の進行等で危険や不穏を回避する為にあえてベッドしか置かない等、状況に応じて対応している	居室入り口には職員手作りのネームプレートがあり、自室が分かりやすくなっています。整理棚や調度品、テレビのほか、仏壇、家族写真、お気に入りの作品などが置かれ、安心して自分らしく過ごせる部屋となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を付け、それぞれの部屋が分かる様にし、同じような物には名前を付けて、自分の物が分かる様、トイレにも案内板を付ける等して、なるべく迷うことを減らして、自立した生活ができる様に工夫をしている		